

音楽のまち

出雲が躍動!!

出雲市が掲げる「音楽のまち出雲」

出雲市が令和3年度に作成した「出雲市芸術文化推進指針」に「音楽のまち出雲の推進」と記載されているように、出雲市においては音楽活動に対する市民の関心が高く、市民の自信と誇りにもつながっています。

出雲フィルハーモニー交響楽団と出雲芸術アカデミー

(公財) 出雲市芸術文化振興財団では、出雲市が創設した「出雲フィルハーモニー交響楽団」や「出雲芸術アカデミー」を引き継ぎ、各種音楽事業に取り組んでいます。特に「出雲芸術アカデミー」は、子供達を中心とする全国でも珍しいクラシック音楽の教育の場であり、設立以来 150 名近くの本科（小学生～高校 2 年生）の修了生を輩出しています。修了生は、音楽大学や教育学部に進むケースも多く、大学卒業後は、交響楽団の団員やソリスト等プロの道に進んだり、愛好家として「出雲フィルハーモニー交響楽団」で演奏したりしています。また、芸術アカデミーで培ったオーケストラや合唱団の力を基盤にして、多くの市民が参加する「出雲の春音楽祭」の中で、これまで「カルメン」「椿姫」「カヴァレリア・ルスティカーナ」など、本格的なオペラの演奏会を開催してきました。



世界初演 《連作交響神楽》第一番〈國引〉／「出雲の春音楽祭」出雲市民会館(2017. 3/20)

出雲の魅力と素晴らしさを伝える《連作交響神楽》

「出雲」は、「神々の國」、「神話のふるさと」として全国的な知名度を有していますが、これら、先人から受け継いだ出雲の魅力と素晴らしさを次世代に継承していくことで、「出雲」というブランドをより強固なものにできるものと考えています。

当財団では、「出雲の春音楽祭」において、新進気鋭の作曲家で出雲芸術アカデミー・コンポーザーインレジデンスも務める平野一郎氏による出雲神話をモチーフとした《連作交響神楽》（作曲者による全構想 9 作品／うち当財団委嘱 7 作品）を、平成 28 年度から上演してきており、令和 4 年度には、出雲神話への理解を深める機会を設け、令和 5 年度に初演する〈國譲〉をもって大団円を迎えることとしています。

《連作交響神楽》構想の全貌

平成28(2016)年度	平成29(2017)年度		平成30(2018)年度	令和5(2023)年度
【第一番】^{クニビキ}國 引 ヤツカミヅオミヅヌ 管弦楽、バリトン独唱 混声合唱、児童合唱 序曲 22分	【第二番】^{ヲロチ}遠呂智 スサノヲ・ヲロチ・クシイナダヒメ 管弦楽 冒険譚 18分 【第三番】^{カガミノフネ}羅摩船 スクナヒコナ 管弦楽、児童合唱 諧謔曲 11分	【天】^{アメノヤチマタ}天八衢 アメノウズメ・サルタヒコ 管弦楽、アルト独唱、 男声合唱 相聞歌(婚礼) 13分	【第四番】^{オホナムチ}大穴牟遲 オホナムチ・ヤソガミ・ヤガミヒメ・スセリビメ・スナカハヒメ 管弦楽 英雄譚 20分 【第五番】^{トリノアソビ}鳥 遊 コトシロヌシ 管弦楽、児童合唱 嬉遊曲 13分	【第六番】^{クニユツリ}國 譲 オホクニヌシ・タケミカヅチ・タケミナカタ・コトシロヌシ… 管弦楽、4独唱、 混声合唱、児童合唱 終曲 25分
		令和3(2021)年度 【間】^{ミツウミ}湖 水面に映る出雲風景 管弦楽、ソプラノ独唱 間奏曲 12分		
		【地】^{ヨモツヒラサカ}黄泉比良坂 イザナギ・イザナミ 管弦楽、テノール独唱、 女声合唱 相聞歌(葬送) 17分		

取材：嶋田 明(関西トランペット協会理事)
管楽器専門月刊誌「パイパーズ」2019.7月号から抜粋

出雲といえば吹奏楽に興味のある方なら全国大会出場最多を誇る「出雲一中」や「出雲高校」、最近では「北陵高校」などが頭に浮かぶことだろう。その出雲市に「出雲芸術アカデミー音楽院」はある。

「音楽の街」を謳う自治体は多いが、市の文化振興財団が運営する音楽院は全国でも貴重な存在である。2005年に設立された出雲芸術アカデミー音楽院は、幼児から成人まで、邦楽、コーラス、オペラ、オーケストラと間口は広い。専門講師が揃っていて、市民のニーズに合った指導が受けられるキメ細かなシステムになっている。

「出雲の春音楽祭」では、「出雲フィルハーモニー・フェスティバル・オーケストラ」と「出雲の春フェスティバル・ジュニア・コーラス」総勢160人の演奏を聴き、その演奏レベルの高さに驚倒した。

音楽監督・指揮者は中井章徳氏。音楽院で指導にあたる地元プロ講師陣との連携も良く、的確なバトンテクニックで、短い時間のリハーサルにもかかわらず、みるみる音楽が流れ出す。

メインプログラムは、2016年度から始まった作曲家・平野一郎氏の出雲神話による《連作交響神楽》で、今年は第四番〈大穴牟遲(オホナムチ)〉と第五番〈鳥遊(トリノアソビ)〉が初演された。

この平野氏の壮大な交響神楽は編成も大きく、オーケストラも合唱も高度な技術と合奏能力が必要だ。プロオーケストラでもなく、音楽大学オケでもない出雲芸術アカデミー音楽院の創造的な企画と演奏レベルの高さは驚異的だ。

近年、全国の文化振興財団の多くは経済を最優先させ、芸術活動を切り捨てる傾向にあるが、ここ出雲はそのような動きとは無縁のようだ。

都市部の音大などで学んだ優秀な若者が地元に戻り、活躍できる場所を提供する出雲の姿は見習うべきではないだろうか。国内外の有名演奏家やタレントを招き、ホールを満席にすることに狂奔する姿勢は、地元の活性化に繋がらない。そのことを出雲芸術アカデミー音楽院は教えてくれているように思う。

音楽院関係者の方々は、大都市の動きは意に介さず、謙虚でしかもマイペース。その活動に高いプライドと気高さを感じた。



出雲の春音楽祭 未来の伝統芸術を創る交響神楽プロジェクト いよいよ最終章

【器楽セクション】 次代に繋ぐ人材発掘 (器楽)	出雲の春音楽祭「奥義抄編」～序 出雲フィルハーモニー交響楽団第25回定期演奏会 -iPhil de コンチェルト-未来につなぐ音楽神話- 2022年(令和4年)9月19日(月・祝)14:00開演 出雲市民会館 大ホール 音楽監督・指揮／中井章徳
【声楽セクション】 次代に繋ぐ人材発掘 (声楽)	出雲の春音楽祭「奥義抄編」～其の壱 出雲オペラ神在ガラコンサート -歌伝名曲の宝箱- 2022年(令和4年)10月30日(日)14:00開演 ビッグハート出雲 白のホール 音楽監督・指揮／中井章徳
【セミナー】 神話の世界に誘う	出雲の春音楽祭「奥義抄編」～其の弐 出雲神話ってなあに？ -交響神楽の原風景を訪ねて- 2022年(令和4年)12月3日(土)15:00開演 大社文化プライスうらら館 だんだんホール ナビゲーター／平野一郎(作曲家) ゲスト／平野芳英(考古学者)、中井章徳(指揮者)
【グランドフィナーレ】 《連作交響神楽》 第六番〈國譲〉世界初演 いよいよ完結!!	出雲の春音楽祭「奥義抄編」～其の参 iPhil[S] 特別演奏会 -神フォニック・フェスティバル- 2023年(令和5年)10月29日(日)14:00開演 出雲市民会館 大ホール 音楽監督・指揮／中井章徳

関係者プロフィール



中井章徳／音楽監督・指揮

倉敷市出身。くらしき作陽大学大学院音楽研究科修了。桐朋オーケストラ・アカデミー、キジアーナ音楽院、京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士課程にて研鑽を積む。指揮を志賀保隆、大山平一郎、故岩城宏之、R・シューマッヒャー、D・アジマン、G・ジェルメッティ、下野竜也の各氏に師事。札幌響、日本フィル、名古屋フィル、京都フィル、大阪フィル、日本センチュリー響、関西フィル、九州響など全国各地のオーケストラで客演指揮を務めている。



平野一郎／作曲

丹後國宮津生。京都市立芸術大学大学院修了。在学中より各地の祭礼を踏査。2001年より京都を拠点に日本の風土に根差す創作を展開。響きと調べ、音と言葉の根源を探ね、失われた身体性・全人性を甦らせる音楽世界を希求。胡絃乱聲(国立劇場)とこよのはる(森の会)鱗宮交響曲(芦屋交響楽団)八幡大縁起(やわた市民音楽祭)等委嘱多数。NHK8K《落慶》音楽制作。2022年オペラ「あの町は今日もお祭り」(国立市)初演。ISCM2008入選、日本財団特別奨励賞、京都市芸術新人賞、青山音楽賞、藤堂音楽褒賞、京都府文化賞奨励賞。